

令和1年10月4日

京口門だより No. 72

なかなか秋らしい季節がおとずれませんが、10月も進めば爽やかな秋が感じられるでしょうか。「去るものは去りまた充ちて秋の空」(飯田龍太)

最近のニュースで昨年度の国民医療費は42兆円ほどになると出ていました。42兆円といえば、国の予算の半分ちかくになるろうかというものです。その原因はいろいろな要素があると思いますが、ひとつには高齢化社会となって、慢性で多様な症状やからだの機能の低下をきたしている高齢者の治療に多額な費用がかかるという面があるようです。こんなことを言うと、病気になった高齢者が悪いようにも聞こえますが、年をとれば体のうえでも多様な問題が起こってくるのは当然です。そうした高齢者の特色をしっかりととらえて、状態に応じた的確な医療がおこなわれることが大切だと思います。実際に老年医学や高齢者医療という分野で問題解決に努められているようです。

しかし現実の医療の現場では、現代医療にありがちな対症療法といいますが、訴えられる症状や病名対して、それぞれ薬を処方して、結局は薬が多くなってしまうということが起こっています。このような状況をポリファーマシー(多剤併用)などといって医師や薬剤師たちがどうすればよいかを議論しています。

先日もある90歳ちかくの男性が、脳梗塞やその他の病気で車イスでしか動けない状態でこられました。言語障害もあるようでスムーズに喋ることもできません。脳梗塞などの病気は一応落ち着いているのですが、身体かほって暑苦しく、夜も眠れないととぎれとぎれに訴えられます。そこで現在飲んでおられる薬をみせてもらいましたら、10数種類もありました。毎回のむのに苦労するとも言われます。正直90歳ちかくなろうという人に、これだけの薬を処方してどのようにしようかとされているのか不思議に思いました。みれば動脈硬化を防ぐといわれる高脂血症薬、血液をサラサラにする薬、抗不安剤、鎮痛剤、胃酸をおさえる胃薬、ビタミン剤など。90歳ちかくなれば動脈硬化もそれなりに進んでいるはずですが、それをさらに予防しようという意図が分かりません。消化吸收の働きも低下している高齢者にビタミン剤は必要でしょうか。現代医学では胃薬といえば強い胃酸を抑える薬がだされませんが、高齢者では胃酸の分泌も低下しているでしょう、さらにそれを抑えて胃薬としていることに疑問をいだきます。私としては直ちに多くの薬を止めて欲しいと思いますし、それによってホテリのような症状は軽くなるのではと思いました。しかし主治医の許可なく勝手に休薬もできませんし、よく相談して減薬するよう言いました。漢方薬は体のホテリを治して安眠できる薬を出しました。その後ホテリも少なくなり眠れるようになられました。

高齢者の方にはなるだけポリファーマシーを止めて、漢方治療をお勧めします。

